

キャラクター名
天道 沙耶

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	中学生	カヴァー	中学生
	パロール			年齢		14
オプション			年齢	14	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	嫌悪	初期侵食率	194	%
出自	天涯孤独	経験	トラウマ	邂逅	借り	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	0	0			1	行動値	7
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	10
精神	4	0	0			4	戦闘移動	15
社会	1	0	0			1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避			知覚	1		意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
アルティメイド服		10	0	-3	

所持品	
思い出の一品	

合計装甲: 10 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス:傍に立つ影P		N		
両親	P 執着	N 悔悟		
この世界そのものP	傾倒	N 敵愾心		
赤城 帝	P 尽力	N 不安		
シアン	P 庇護	N 不安		
子供達	P 信頼	N		
鹿嶋 涼	P 親近感	N 劣等感		

最大財産P: 2 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
磁力結界	3	3	オート	至近	自身	自動		
効果: ガード値+LvD								
斥力障壁	5	2	オート	視界	単体	自動		
効果: ダメージ-1d+lv×3、ラウンド1回								
セットバック	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果: 暴走以外のバステlv回復。ラウンド1回								
孤独の魔眼	3	4	オート	視界		自動		
効果: シナリオlv回、範囲選択の攻撃を自分1人に								
原初の紫:マグネットフォース	1	3	オート	至近	自身	自動		
効果: カバーリングを行う								
レネゲイドイーター	3	4	オート	至近	自身	自動		
効果: オーヴァードの攻撃へのガード値+lv+1D								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100	
効果: シナリオ1回、攻撃を失敗させる								
黒星粉碎	5	4d10	イニシア	視界	範囲選択	自動	120	
効果: 組み合わせ不可、lv+5Dのダメージ								
原初の黒:隠された世界	1	2+1d	オート	視界	単体	自動	100	
効果: 攻撃を単体にし、対象を再選択させる								
偏差把握	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

血癒人の両親から生まれた、血癒人ならざる異能の子。それが天道だった。元は力を宿すこともなく、普通のこととして生きていた。しかし幼い頃、両親が怪物になった事で全てが変わる。優しかった両親は豹変し、明確な殺意を向けて来る。天道は逃げた、しかし怪物の前ではその逃走も無意味だった。殺される…どうしてこんなことになったのだろう、両親はどうして自分を殺そうとするのだろう。死の直前、彼女の抱いた感情は…憤怒だった。憤怒は強烈なエネルギーの塊に変わり、両親を吹き飛ばした。…居住区の一部を、そこに居た人々を巻き込んで。我に返った彼女が見たものは焼け爛れ息絶えている両親と、灼熱地獄の様な火の海。そして…崩れ落ちた天道を見下ろす、"自らの影"だった。彼女は血癒人とは認められなかった。親殺しという行為と、天道の傍に立つ影。あまりにも血癒人という存在からはかけ離れた異形。両親の怪物化を知らない無辜の人々には最早、彼女は怪物と大した差はなかっただろう。それ以来人を傷つけることに酷く怯えなにかを拒むような、守りという形でその異能を形成している。周囲の人々は彼女を避け、時に罵倒した。罵倒はどういうことではない。けれど…彼女を怒らせれば彼女の両親と同じ末路を辿る。その言葉は、彼女の心を抉るには充分過ぎた。その度に彼女の中には、怪物という概念とこの世界への憎悪を募らせていく。彼女は今、怪物から人知れず人々を守るべく行動している。それが奪ってしまった命への償いだと思っているからだ。随分昔、家族で撮った写真を入れたペンダントを身につけている。幸せそうに笑う一家の日常は、もう戻って来ない